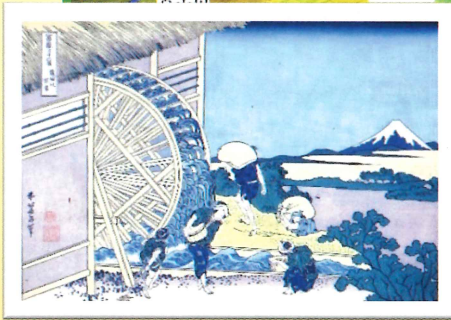




玉川上水吐き水門(新宿歴史博物館所蔵)



北斎「穂田の水車」(神宮前交番の標識より)

～ 地域を開発した水の力～

- [日時] 2026年5月24日(日) 13:30～15:30
- [会場] 小平市小川公民館 2F ホール (定員60名)
- [講師] 梶山 公子氏

(渋谷川・水と緑の会代表、学び舎ユネスコ理事)

参加無料
申込不要

- ◎自然の川渋谷川
- ◎渋谷川を変えた玉川上水の余水
- ◎川のネットワークは地域の発展を支えた
- ◎三田用水、原宿村分水が果たした役割

主催：学び舎江戸東京ユネスコクラブ

<https://www.unesco.or.jp/manabiya/>

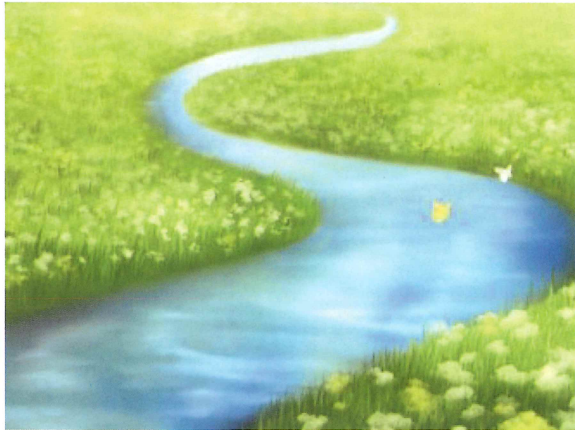


後援：(社)日本ユネスコ協会連盟・小平市教育委員会



♪プチ情報♪

童謡『春の小川』のモデルとなった場所を知っていますか？



春の小川は、さらさら行くよ
岸のすみれや、れんげの花に
すがたやさしく、色うつくしく
咲けよ咲けよと、ささやきながら

春の小川は、さらさら行くよ
えびやめだかや、小鮒の群れに
今日も一日ひなたでおよぎ
遊べ遊べと、ささやきながら

この歌を知っている人は多いですね。思わず口ずさんでしまいます。
作詞は高野辰之、作曲は岡野貞一。1912(大正元)年に発表された唱歌です。

『春の小川』の舞台は東京都渋谷区!?

この「さらさら行く」春の小川の場所は、いったいどこなのでしょう？
確定している説はありませんが、一般的には現在の東京都渋谷区代々木界隈といわれます。

作詞当時、高野は東京府豊多摩郡代々幡村の一角(現在の東京都渋谷区代々木3丁目)に居を構えていました。当時は一面の田園地帯であり、渋谷川本流に注ぐ宇田川の支流のひとつである河骨川と呼ばれる小川が、田園を潤し、周辺にはスマレやレンゲが生え、メダカが生息していました。高野は家族とこの川に親しみ、それを歌ったのが本作であるという説があります。

高野の娘は、1975年放送のNHK番組で「小さい頃、父と代々木近辺をよく散歩した。田園が広がるなか、小川には小魚が泳ぎ、春には花が咲いていた。『春の小川』はこのあたりを歌ったものと聞いている。」との趣旨を語っています。

河骨川は1964年(昭和39年)に東京オリンピック開催による区画整理で暗渠化され、一番の歌詞に歌われている「れんげ」は、水生植物であるハスの花の「蓮華」ではなく、野草の「レンゲソウ」を指しています。
(ウィキペディアより)

会場案内図

小平市立 小川公民館
(小平市小川町1-1012)

西武国分寺線
鷹の台駅より 徒歩6分

